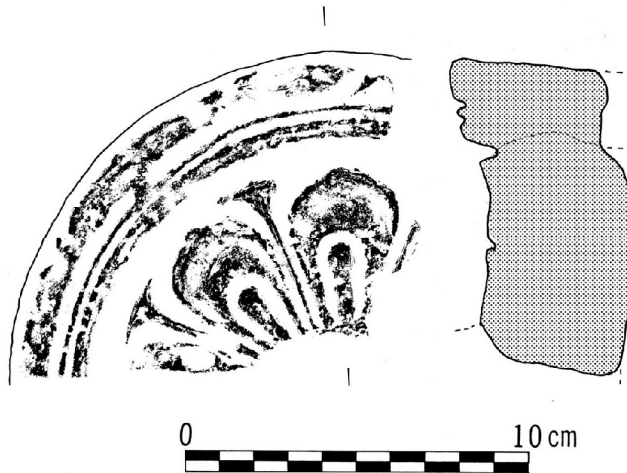


資料紹介 1

名古屋市中区正木町公園出土軒丸瓦について

和田 英雄



1980年3月3日、名古屋市中区正木町5丁目、正木町南公園内において都市整備事業による公園整備工事中に軒丸瓦の破片を拾った。拾得物であるので3月8日、名古屋市中警察署に届けた。拾得物は乙第1122号として受理された。

重圏縁単弁8弁蓮華紋瓦の破片である。中房は欠失している。周縁は二重圏紋をめぐらし瓦当の厚さは47mmを計測する。内区の花弁端はとがり、僅かな膨らみを呈しており子葉は凹線により表現され「T」字形の間弁も見られる。瓦当折損部の観察では、予め軒丸瓦をセットした瓦当范に粘土塊を嵌入後、成型した痕が窺えるが、梶原義実論文(注1)に見るごとく瓦当部と丸瓦部を同時に成型する「一本作り技法」なのか。私は瓦研究者で無いので断定はできない。焼成は軟質で灰白色を呈している。元興寺跡出土軒丸瓦の瓦当范種は研究者により13種が確認されているようであり b形式であろう。(注2)

なぜか軒丸瓦については1年後1981年3月7日付け名古屋市教育委員会教育長名により文化財に認定するとの通知文書が来た。下前津町の工事現場から拾った完形に近い弥生時代細頸型土器なども拾得物として警察署に届けてきたが、それらについては名古屋市教育委員会からは何の音沙汰もない。

注

- 1 梶原義実 平成19年3月 尾張・三河地域における奈良時代の古瓦(横置型一本作り技法について) 愛知県史研究第11号
- 2 名古屋市教育委員会 2002 「尾張元興寺跡第7次発掘調査報告書」